

まちかど未来塾 だより



5月 (May)

	mon	tue	wed	thu	fri	sat
		1	2	3	4	5
第1週	ゴールデンウィーク 休講					
	7	8	9	10	11	12
第2週		親カフェ・ふらっと		国分寺5中 中間テスト期間		
	14	15	16	17	18	19
第3週		小平4中 中間テスト期間				
	21	22	23	24	25	26
第4週						
	28	29	30	31		
第5週						

*お月謝の引き落としは14日(月)です

中学 参考書テキスト代が含まれています、ご確認ください

「親カフェ・ふらっと」with メンター がスタートします！



Mirai Letter 65



今日の風、なに色？

中央公民館での取り組み「自閉症啓発週間」の展示にラボも参加しました。期間中には嬉しい応援メッセージが届き、発達障がい者への理解が数年前と比べて広がってきていることを感じたイベントでした。

私も自宅の本棚にある「今日の風、なに色？」を久々に手に取って読んでみました。この本は盲目の天才ピアニスト「辻井伸行氏」のストーリーです。眼の見えない辻井君にとって「色」を理解させるために「リンゴの赤」「バナナの黄色」と教えていたお母さんに「じゃあ今日の風はなに色？」と辻井少年は聞いてきたそうです。眼が見えない彼にとって大好きな食べ物に色というものがあるのなら同じく大好きな風に色があっても不思議ではない訳で、このような表現になったらいいのです。このように眼が見えることが当たり前の世界に居る人たちにとってはこの表現は意外性と魅力ある表現と捉えるでしょう。

辻井君のお母さんは息子の障がい「目が見えない」ということにとられるあまり、その人がその人らしく生きる！ということに気が回らなかったそうです。書を読み漁り、何とか自分の気持ちに折り合いを付けたかったのですが、いずれの書に書かれている事は苦労話や社旗的な閉塞状況ばかりで、とても明るい展望など持てないものばかりだったそうです。

そんな折、辻井君と同じ立場の視力障害を持つ「福沢美和さん」が盲導犬と共に楽しく生きる様子を描いたエッセイと出会います。この書を通じて障がいを持ちながらも楽しみながらいるるな事に挑戦する中で人は自分自身の道を見つけるものだ、ということに思い至ったそうです。たとえ障害を持って生まれたとしてもその人なりの感覚や世界があり、それを広げていく事ができることを彼女から学んだそうです

現在、ラボが取り組んでいる家族支援のペアレントメンターは障害を持ったこどもを育てるお母さんたちは目の前の育児をどうして良いかわからないし、その子の将来も不安で、何をしてもよいかわからない、そんな時に希望を見いだせるのは同じ育児経験をしてきた先輩お母さん(道先案内人=メンター)、「今日の風、なに色？」はこのメンター活動の普及の大切さを再認識させられた「勇気につながる」書となりました。

(T.lmou)